

「晩秋の高尾山自然観察行(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

12月中旬急に思い立って、高尾山を歩いてきた。急にお誘いしたにもかかわらず、露木和男先生がご一緒に歩いてくださった。露木先生は、理科教育に関心がある先生ならまず知らない方はいない、偉大な実践家であり、研究者でもある。もう30年近くもお付き合いいただいている、共著で実践書「一瞬の理科」も出版させていただいた。そんなすごい先生にご同行いただけるとあって、当日が実に楽しみだった。



高尾山といえば、新宿から京王線と決まっている。しかし、コロナ第三波が報道され始めていた時期なので電車の利用は避け、自家用車で現地集合とした。土曜日の高尾山は「駐車場難」である。駅前の駐車場はすぐに満車になる。幸い、登山口近くの商店街に「穴場の私設駐車場」を見つけ、2台とも止められた。朝早く着いたので、商店街も閑散としていた。



紅葉はすっかり終わっていると思っていたが、意外や意外、モモジやナラはまさに見頃という感じだった。

今回は「山歩き」というよりも、「自然観察」が目的である。「センス・オブ・ワンダー」の大家である露木先生にさまざまな動植物について、実地でレクチャーしていただける、またとないチャンスだ。観察目標は「植物の綿毛」「冬の昆虫」それに「変形菌」である。変形菌はこの時期、ほとんど「休眠状態」に入っていて、変形体や子実体はなかなか見られない。それでも何種類かは見つかるだろうと期待した。



私はかつて、国立科学博物館主催の「高尾山変形菌観察会」に参加したことがある。開催は7月で、変形菌の観察には最適の時期だった。確か「4号路」を歩きながら、数十種類の変形菌を採集しながら歩いた。



今回は「超軟弱山行」を決め込み、往路はケーブルカー、復路は1号路か4号路を下ろうということになった。ケーブルカーに乗るのは、数年前の3年生遠足以来だ。車窓からの晩秋の眺めも楽しみである。